

建設業界ってヤバい？

認知度アップが第一の目的 意外な実習で学生にアピール

土木工事を手掛ける共栄建設は、浜松市主催のインターンシップフェアに参加し、申込者1名を獲得。学生の成果発表も評価され、市から表彰を受けた。その戦略を尋ねるべく同社を訪れた。



「イ
ンター
ンシッ
プフェア
in浜松
2018」は、浜

松市および湖西市の企業と学生とのマッチングを目的とした就職イベント。共栄建設は、各社ひしめく会場で自社のブースに5名の学生を呼び込み、インターン申込者1名を獲得と健闘した。一体、学生たちの関心をどのように引きつけたのだろうか。

キャッチーな言葉と 意外性のある実習内容

「当社のような土木建設工事業の中小企業は、合同企業説明会に参加しても素通りされるだけ。そ

こで、それ以前に学生に近づける機会はないかと考えてインターンシップフェアに目を付けました。

今どきの若い子たちの考え方を直接吸収できる貴重な機会です。事前に実施計画書が公式サイトで公開されるし、フェア当日に1分間のPRタイムもあるので、そこで目立てば学生を呼び込めると考えました」と採用担当の松井氏。

まず、インターンの実習タイトルは、「ググっても出てこない！建設業って本当のトコどうなの？」と、学生にウケるキャッチーな文句にして注目度をアップ。

また、1分間スピーチでは自身



共栄建設 株式会社

浜松市中区上島

1963年の創業以来、公共および土木工事の現場監督業務を中心に手掛ける総合建設会社。浜松市から優良工事施工業者に連続して認定された実績を持つ。従業員数は18人。営業部の松井大樹氏は東京理科大学および大学院で建築学を修了後、東京のIT企業に就職。2016年に父親の営む同社へ転職以来、採用担当を務める。

営業部 松井大樹



の異色キャリアを織り交ぜながら、ラフな語り口で親近感をアピール。実習内容も、建設業でありながらウェブページを制作するという意外性でフックをかけた。

会社を変える力となる人材を獲得したい

同社では、この10年間で、新卒者を採用してこなかった。しかし、建設業界の未来を見据え、今後は新しい領域に挑戦する原動力となり得る人材を確保する必要があると考えて、新卒採用とインターン実施を検討し始めた。

「建設業はIT業界などとは違って露出が少ないので、就職を希望する学生もごくわずか。ですから、まずはフェアに参加して建設業界や当社の認知度を高めることが第一目的でした」と松井氏。

成果物を作らせて手応えを与える

インターンの申込者に対して、実際に実習を行ったのは昨年9月。参加したのは近畿大学電気電子工学科の3年生で、Uターン就職を希望していた。

5日間の実習では、建設業の現

状や課題についてレクチャーや議論を行い、「建設業、今のままだとヤバイ。」という題でウェブページを制作。文章作成や作図は全て学生が行った。完成したサイトは現在も公開されている。

「成果物があると、学生にとって手応えが大きいようですね。社員と一緒に計画して何かを作るといったプロセスを体験できて楽しかったと本人も言っていました」

インターン生とは実習の最終日にお酒を一緒に飲みに行き、LINEも交換。今でも気軽に連絡を取り合える関係だ。

「建設業の中小企業が人材を獲得するには、『誰と働くか』を強みにする必要があると考え、実習期間中は業務よりも人をPRしよう」と、学生との距離を縮める努力をしました。インターンを採用に直結させてはいけないという意見もありますが、最後に彼が『当社への就職を』真剣に考えます』と言ってくれたときはさすがに嬉しかったですね」と笑顔を見せる松井氏。今後はインターンの実施と並行して採用サイトも公開し、大学生や高校生の認知度を高めたいと意欲を語った。



インターンシップフェア in 浜松 2018

実習タイトル 「ググっても出てこない！ 建設業って本当のトコどうなの？」

共栄建設のカリキュラム

1日目 ■ブレインストーミング
「建築業に対する今のイメージ」
■工事現場見学

2日目 ■工事現場見学

3日目 ■工事現場見学
■ディスカッション
「インターンで感じた建設業の課題と解決方法、建設業に興味を持ってもらうための戦略会議」
■ウェブサイト作成準備

4日目 ■ウェブサイト作成

5日目



無料のホームページ作成サービスを使ってウェブページ作りに取り組む学生。インターンシップでの実習を通して感じた、建設業への率直な意見や課題をまとめている。完成したウェブサイトのタイトルは「建設業、今のままだとヤバイ。」



※浜松市が実施するインターンシップコーディネート事業